



プリローダ

第77号
(NPO 第27号)

発行：令和7年7月1日



【ПРИРОДА】プリローダ＝ロシア語で「自然」という意味をあらわす

むさしの・多摩・ハバロフスク協会は、東京都武蔵野市で生まれた、「寒帯林保全」、「自然体験活動」、「国際交流」などを行うNPO 法人です。

ひとつの地球ひとりの地球人として

——戦後80年の節目に、 モンゴル抑留者の方々に想いを馳せる植樹活動



▲ダンバダルジャーの慰霊碑前で井川原大使ご夫妻と



エルデミーンオリギル総合学校の皆さんと▲

2024年8月に定款変更が認められ、モンゴルにおける植樹活動が当協会の正式事業となり、第1回（通算2回）目の植林ボランティアツアー inモンゴルを5月2日（金）～6日（火）の日程で実施いたしました。今回のツアーでは、さまざまな意義深い取り組みを行い、大成功に終わったと考えています。

まず、前年9月29日～12月1日にかけて初めてクラウドファンディングCAMPFIRE ソーシャルグット（社会貢献部門）「モンゴルの小学校での植樹活動に、ご支援をお願いいたします！一緒に、ご参加も！」に挑戦して35組41人の方々から35万4千円のご厚志を頂きました。

そして、戦後80年の節目に井川原 賢駐モンゴル日本国特命全権大使ご夫妻をお迎えして、日本人抑留者墓地周辺にて合計50本のモンゴルサクラや杏の植樹活動を行いました。この場所における植樹活動は、これからも続ける予定で、現在身元が特定されている1522人の方々とまだ特定されていない方々にも想いを馳せて「友好の森」として作りあげていきたいと考えています。さらにノゴーン・ノールの石切り場でご苦労されて、モンゴル国の主要な建物の礎を築き、その

近代化に貢献した日本人の方々が存在することを一人でも多くの方にお伝えすることも当協会の使命であると感じているところです。

また、当初予定していたゴロムト小学校が改築されることになり、急きょ別の学校で100本の植樹活動を行うことになりました。それでも180人もの児童・生徒さんが参加してください、日本からの参加者と交流しながら作業を行いました。直前にも関わらず、快く受入れてくださったエルデミーンオリギル総合学校の関係者の方々や現地環境団体のニンジンさんをはじめとするオイスカモンゴルの方々に心から感謝したいと存じます。

冒頭のタイトルの「ひとつの地球ひとりの地球人として」は設立当初の当協会のキャッチフレーズです。世の中は混んとしており、切実に平和を願うばかりです。また、AI時代に突入したこともあり実体験不足であると感じます。大自然が満喫できるモンゴルで、植樹等の自然体験を大切にしたい活動をこれからも充実させて行きたいと考えています。

（安藤栄美）

2025 植林ボランティアツアー in モンゴル **報告**

ハバロフスクでつながった友好 モンゴル“10億本の植樹運動”参加ツアー

●期間：2025年5月2日(金)～5月6日(火) ●参加者：15名+スタッフ4名 計19名 ●現地サポート：ニンジン ギリヤセド

1日目 5月2日(金)【成田～ウランバートル】

11時25分、成田空港出発ロビーに参加者全員が集合し、チェックインを済ませました。昼食は各自でとったのち、アエロモンゴリア航空にてモンゴルのチンギスハーン国際空港へ向けて出発しました。

今回の訪問先であるモンゴルは、日本の約4倍(約156万平方キロメートル)の国土を持ちながら、人口はわずか約340万人。人口密度にすると1平方キロメートルあたり約2人ほどで、日本のおよそ150分の1です。広大な大地と果てしない空が広がる、自然に包まれた国です。

およそ1時間遅れの15時45分に出発して、約5時間のフライトを経て、現地時間の19時50分(日本時間20時50分)に到着。空港の外に出るとまず感じたのは、乾いた空気と澄んだ夕暮れの光でした。時刻は夜の8時半を過

ぎているのに、空はまだ明るく、はるか遠くまで街灯が並ぶ光景に、思わず見とれてしまいました。風が吹くと肌寒さを感じるほどで、5月とは思えないひんやりとした空気が印象的でした。

入国手続きを終えたあと、ガイド兼通訳のニンジンさんと合流し、全員で貸切の大型バスに乗車。最初の宿泊先となる「モンゴリカホテル」へ向かいました。空港から市内までは約50km。中心部の大渋滞を避けたルートをとったものの、移動には1時間半ほどかかりました。

ホテルに到着後は、日本円からモンゴルトゥグルグへの両替や現地SIMカードの購入、翌日の予定確認などを行い、この日の行程を終えました。

2日目 5月3日(土)【ウランバートル市内・郊外での記念植樹と文化交流】



ダンバダルジャー墓地跡地周辺に50本の苗木を植樹

7:00から朝食で8:25にホテル出発、1時間半のバス移動。この日は、ウランバートル郊外にあるダンバダルジャー墓地を訪問し、日本人抑留者の慰霊碑に参拝することから始まりました。私たちの訪問にあわせて、駐モンゴル日本国特命全権大使の井川原賢大使ご夫妻もご同行くださり、ご一緒にお線香を手向け、花を供えてくださいました。風にそよぐ草木の音に耳を澄ましなが、全員で静かに祈りを捧げる時間は、心に深く刻まれるひとときとなりました。



続いて行われた植樹セレモニーでは、井川原大使からご挨拶をいただいた後、大使ご夫妻も私たちと共に植樹作業に参加されまし

た。軍手をはめ、膝をつきながら、泥にまみれて一本一本苗木を植えてくださるその姿はとても印象的で、国や立場を越えて「ともに手を動かすこと」の尊さを改めて実感しました。この日植えた苗木は50本。モンゴルの地で抑留中に命を落とした、身元が確認されている1,522人の日本人、そしていまだ身元が特定されていない方々への想いを込めて、参加者全員で心を込めて植えました。私たちの協会として、この場所に「友好の森」を作っていくための第一歩です。

作業を終えた後は、オイスカモンゴルのスタッフの皆さんが温かい飲み物とお茶菓子を用意してくださり、ほっと一息つく時間がありました。井川原大使ご夫妻もその場に加わってくださり、特に若い参加者たちに優しく声をかけてくださいました。植樹の感想や将来の夢、日本とモンゴルの関係など、さまざまな話題が飛び交い、温かな交流の場となりました。

昼食はウランバートル中心部に戻り、ジョージア料理のレストランにて。スパイシーなスープやピザのようなパン生地料理のハチャプリなど、異国の風味を楽しみながらの食事となりました。午後は、スフバートル広場を見学。広場の石畳や周囲に立ち並ぶ建物の土台は、かつての抑留日本人たちが建設に関わったとされており、いまでも健在なその姿は、私たち日本人の心に強く響くものがありました。その後は自然史博物館を訪れ、恐竜の化石や隕石、動物の剥製などを見学。続いて短時間ながら

デパートにも立ち寄り、それぞれに買い物を楽しみました。

夕方からは民族音楽コンサート



を鑑賞。民族衣装に身を包んだ演奏者たちが馬頭琴やホーミー（喉歌）を披露し、モンゴルの豊かな音楽文化を間近で感じる貴重な機会となりました。素晴らしい演奏の一方で、

途中から遅れて入場してきた他国の団体客が大声で会話しながら着席する場面があり、観客としてのマナーについて考えさせられる一幕もありました。

夕食は、昨年訪れた人気のモンゴル風しゃぶしゃぶレストラン『THE BULL』にて。ラム肉や馬肉のしゃぶしゃぶに加え、チャーハンや水餃子などの料理を囲みながら、ツアー参加者たちの会話も弾みました。食後はバスで55分かけてモンゴリカホテルへ。到着は21時45分。早朝から夜まで、慰霊と植樹、文化交流を通して多くの学びと感動に満ちた一日となりました。

3日目 5月4日(日)【活着率調査とテレルジ国立公園】

この日は7:30に朝食をとり、前泊していたモンゴリカホテルを8:30に出発。チェックアウトを済ませ、最初の目的地である「国立アカデミー自然植物研究園」へと向かいました。ここは昨年の植樹地であり、今回はその苗木の活着率を調査することが目的です。

約1時間の移動を経て現地に着し、白と黒のリボンを目印に、昨年植えた苗木を一本一本確認しながら30分ほどの調査作業を行いました。結果、活着率は91%という非常に高い数値となり、苗木がこの一年でしっかりと根を張り、現地に定着していることを確認できました。この数字は、現地スタッフの手入れの行き届いた管理のおかげでもあり、参加者一同、大きな達成感とともに植林活動の意義をあらためて実感しました。

その後、バスで約1時間移動し、草原の中に聳え立つチンギスハーン騎馬像を訪問。巨大な騎馬像の内部にはレストランやお土産物のショップがあり、私たちは馬の頭部に設置された展望台に登って、草原を一望する絶景を堪能しました。強風にたなびくモンゴル国旗とともにそびえ立つ像は圧巻で、改めてチンギスハーンがこの国の人々にとっていかに英雄的存在であるかを肌で感じることができました。

騎馬像を出発し、13:30に遊牧民宅を訪問しました。伝統的な遊牧民の暮らしに触れる体験です。まずはゲルにて出迎えのお茶菓子でもてなされたあと、大きなゲルに移動して昼食をいただきました。メニューは、温かい



昼食に遊牧民宅で「ボーズ」(モンゴル風小籠包)をいただく

スープに、大きな肉シュウマイのようなボーズ、そしてサラダ。素朴ながらも滋味深い家庭の味でした。昼食後は、乗馬体験

とフタコブラクダに乗る体験を行いました。ラクダの背に乗ると目線が高くなり、風の吹き抜ける草原の眺めをいつもとは違う角度から楽しむことができました。モンゴルのラクダは足ががっしりとしており、寒冷で起伏の多い環境にたくましく適応している様子がうかがえました。乗馬やラクダとのふれあいを通じて、遊牧民の暮らしがどれほど自然と共にあるかを感じることができました。15:30、遊牧民宅を後にし、山あいの悪路をバスで進んで「亀岩」に立ち寄りました。岩がまるで亀のように



亀石（高さ約15m）で観光＆お土産購入

見えることからこの名がついたそうで、30分ほどの滞在で写真撮影やお土産選びを楽しみました。

17:00、この日の宿泊先は、「エナジーヒルズリゾート」という新しいゲルキャンプ。

山に囲まれた大草原の中に点在する真新しいゲルは、外観こそ伝統的な造りですが、内部にはシャワートイレや床暖房、ベッドまで完備されており、快適さに驚かされました。終日強風が吹きすさび、外の体感気温は0℃近くまで下がっていたものの、ゲルの中は暖かく、冷えた体をしっかりと癒してくれました。

18:30からゲルキャンプ内のレストランで夕食。温かいスープ、サラダ、モンゴル風焼きそばを味わいました。夕食後は20時頃に解散し、各ゲルでゆっくりと休む時間となりました。日中は曇り空に強風という天候でしたが、深夜になると空は次第に晴れわたり、4日目の未明には、満天の星空が私たちを迎えてくれました。

テレルジ国立公園の静寂な夜空に瞬く無数の星々は、まるでこの地での活動をそっと見守ってくれているかのようでした。

4日目 5月5日(月)【学校での植樹とノゴーン・ノール】

7:30に朝食をとり、9:00にゲルキャンプを出発しました。最初の訪問先は、この日の植樹活動の舞台であるナ

ライハ区の「エルデミーン・オリギル総合学校」。バスで40分ほど移動して学校に到着し、まずは校舎内を少し見

学。その後、間もなく校舎前の広場で全校集会が始まり、私たちも参加しました。先生方から温かく紹介していただいた後、安藤理事長が生徒たちに向けてご挨拶。その後、小学生たちが我々の訪問を歓迎する歌とダンスを披露してくれました。大勢の生徒たちが笑顔で迎えてくれた光景はとても印象的で、胸が温くなるひとときでした。集会が終わると、すぐに学校敷地内での植樹活動を開始。



植樹前のセレモニーで歓迎の歌とダンスを披露していただく

5年生と12年生、合わせて約180名の子どもたちと力を合わせて、100本の苗木を無事に植えることができました。小さな手で土をならす姿や、真剣な表情

で苗木を見守る

子どもたちの様子から、この木々が未来へと続いていく希望の象徴になることを強く感じました。11:30頃に学校を出発し、バスで1時間ほどかけてノゴーン・ノール（緑の湖）へと向かいました。ここは、かつて戦後の混乱期に抑留された日本人が石を切り出していた場所であり、昨年「祈念の植樹」を行った地でもあります。昨年植えた4本の苗木は、どれも立派に根付いており、厳しい自然



モンゴルの学生さんたちとツアー参加者が一緒になって植樹

の中でも力強く生きている様子に胸が熱くなりました。戦後この地で過酷な労働を強いられた日本人たちは、切り出した石を用いてウランバートル中心部の建築やスフバートル広場の石畳を築き、モンゴルの近代化に大きく貢献しました。その歴史をこの場所で知ることができ、また、現在もこの土地を大切に守り続けているモン



ノゴーン・ノールで昨年祈念植樹した苗木の活着を確認

ゴルの方がいることに感謝と敬意を覚えました。敷地内には「サクラミュージアム」と名付けられたゲル型の資料館があり、石切り場の歴史に関する

展示が行われています。展望台からは、高層ビルが立ち並ぶ都市の風景、隣接するゲル地区、そしてその先に広がる山と大草原まで一望でき、モンゴルという国の多面性を感じることができました。澄んだ青空と乾いた空気が、より一層その風景を印象深いものにしていました。

ノゴーン・ノールでの見学を終えた後は、バスで約30分、ウランバートル中心部のデパートへ移動。最上階のレストランで昼食をとりました。温かいスープ、パン、サラダ、そしてモンゴル風揚げ餃子「ホーショール」をいただきましたが、中でもホーショールは香ばしくて格別の味でした。レストランの窓からは市内の景色が広がり、朝青龍さんが建てたアサアリーナの姿も見えましたが、最も目を引いたのは、道路を埋め尽くす車と激しい渋滞、そしてクラクションの音。これもまた、ウランバートルらしい風景のひとつです。昼食後は、デパートの下階で自由時間となり、各自ショッピングを楽しみました。17時にデパートを出発し、約1時間15分かけてウランバートルのフラワーホテルへ。市内の大渋滞に巻き込まれながらの移動でしたが、18時過ぎには無事にホテルへ到着しました。

チェックイン後すぐに、ホテルで最後の夕食となるボルシチと肉料理をいただき、4日間にわたる全行程の締めくくりとなる食事を楽しみました。食事の最後に、高校生の参加者へのボランティア証明書授与式も行いました。食後は希望者のみで徒歩にて近隣のEマートへ向かい、地元スーパーでの買い物を満喫。21時にはその日の活動をすべて終え、ゆっくりと最後の夜を過ごしました。

5日目 5月6日(火)【帰国の途へ】

最終日は5:00にフラワーホテルを出発し、バスで空港へ向かいました。早朝のため交通渋滞はなく、大草原を横目に、時折姿を見せる家畜たちを眺めながら、約50分でスムーズに到着。朝の静けさの中、モンゴルの広大な景色を目に焼き付けながら、名残惜しい気持ちで空港へと向かいました。

空港でのチェックインを終えた後は、保安検査場前でガイドのニンジンさんとお別れ。今回のツアーでも、ニンジンさんの丁寧な案内と心配りに何度も助けられました。感謝の気持ちを伝え、搭乗ゲートへと進みました。およそ5時間のフライトを経て、日本時間の14:00前に成

田空港に到着。到着ロビーで簡単な解散式を行い、ここで全行程が終了となりました。

昨年に続き、今年のツアーも大変充実した内容となりました。とくに今年は、昨年の反省を踏まえ、ウランバートル中心部を通るルートを極力避けるなどの工夫を凝らし、よりスムーズなツアーになったと感じています。ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。このツアーを通して得た体験や出会いが、皆さまの心に残るものとなっていれば幸いです。またお会いできる日を、スタッフ一同楽しみにしております。

(報告 佐藤 巧)

モンゴルで学んだこと

石川 敬太 (小学6年生)



僕はゴールデン・ウィークにモンゴルで植樹をするボランティア・ツアーに参加しました。モンゴルに行く前は砂漠と山が多い国だと思っていましたが、実際に到着すると首都のウランバートルは大きな街で驚きました。そして、ツアーに参加する前は、慣れないモンゴルのご飯が食べられ

るかどうか心配していましたが、羊のお肉も美味しくてモンゴル料理をたくさん食べました。

今回のモンゴル旅行で学んだことは大きく二つあります。まず到着した翌日朝、僕達はウランバートルの郊外にある日本人抑留者の墓地を訪れ、お線香をあげました。なぜ日本から遠く離れたモンゴルに日本人のお墓があるのか不思議に思っていました。現地でガイドさんから説明を受け、第二次世界大戦で日本が負けてしまった後、満州にいた多くの日本人が、当時のソ連軍に捕まえられたり、騙されて捕虜となり、モンゴルでも働かされていたことを知り驚きました。そして、マイナス40度にもなるモンゴルの冬の寒さに苦しみ、飢えや病気で1200人以上の日本人がモンゴルで亡くなったと聞き、悲しくなりました。今は日本とモンゴルは仲良しですが、当

時は、戦争が終わったばかりで、モンゴルにとって日本は敵だったそうです。僕達が訪問したダンバダルジャー墓地以外にもモンゴルの国内には16ヶ所こうしたお墓があるそうです。戦争が終わった後も日本から遠く離れた外国で大変な苦勞をした日本人がたくさんいることを僕は初めて知りました。今年は戦争が終わってちょうど80年目になります。この80年の間、僕達が日本で平和な生活をする事が出来るのは、こうした海外で大変な苦勞をされた方々のお陰だということを学びました。

もう一つは、世界の環境問題を解決するために、僕達がモンゴルで行った植樹がとても大切だということです。現在、モンゴルは10億本の木を植えることを目標にしています。このツアーで、僕達はダンバダルジャー墓地とエルデミーンオリギル総合学校の2ヶ所で木を植えました。モンゴルに行く前は、木を植えるのはとても簡単なことだと思っていました。でも実際に、やってみると、肥料を入れたり、周りの土を砕いて足で固めたり、とても難しかったです。エルデミーンオリギル総合学校では僕と同じ年くらいのモンゴルの生徒と一緒に植樹をして楽しかったです。モンゴル語が分からないので、英語やジェスチャーを使って一緒に木を植えました。空気が乾燥しているモンゴルでは、植樹をした後に、水をあげたりしっかりお世話をしないと、木が枯れてしまうそうです。僕達が植えた木をモンゴルで大切に育てて欲しいと思います。そして、いつかまたモンゴルを訪問して、僕が植えた木が大きく育っているのを見たいです。

モンゴルでは、初めてらくだに乗り、ゲルにも泊まって、とても楽しかったです。このツアーを企画してくれたスタッフさん、ツアー中、仲良くしてくれたお兄さん、お姉さん、そして現地で僕達を一生懸命サポートしてくれたガイドのニンジンさん、どうもありがとうございました！バイラルラー！



2025年度総会資料

全ての議案は承認されましたので、(案)の文字は消されています。

議案第1号

2024年度 事業報告書

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

1 事業の成果

定款を変更することを前提にモンゴルにおける植林ボランティアツアーを試験的に行い、国立科学アカデミー自然植物園において100本のモンゴルザクラを植えることができた。現地でのパートナーも見つかり、次年度につながる事業とすることができた。そして、次年度の実施の準備としてクラウドファンディングによる支援金の募集も行った。

また、モンゴル料理を楽しむ会を両国にあるお店で行い、文化交流を図った。

広報紙ブリロードの発行は1回行い、総会報告ほか植林ボランティアツアーの報告も掲載することができた。

なお、予定していた環境セミナー事業は、オンライン会議で計画していたが、国際情勢の影響で実施することができなかった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【2896】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
その他この法人の目的達成に必要な事業	植林ボランティアツアー in モンゴルを試験的に実施した。	2024.5.3 ～5.6	モンゴル国 ウランバートル周辺	4人	協会会員 他一般市民	9人	2771
ロシア並びに極東ユーラシア地域(モンゴルを含む)の芸術、文化、芸術等を普及啓発する事業	モンゴル料理を楽しむ会を開催した。	2024.9.29	モンゴル料理 ウランバートル(両国)	2人	協会会員 他一般市民	12人	58
その他この法人の目的達成に必要な事業	広報紙ブリロードを発行して広く活動を紹介した。	2024.7.1		3人	協会会員 他一般市民	300人	67

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)

書式第15号(法第28条関係)

事業報告用

2024年度 貸借対照表

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

(単位:円)

科 目		金 額	小計・合計
【A】資 産 の 部			
1 流動資産			
	現金預金	314,220	
	ゆうちょ銀行普通預金	58,782	
	三菱UFJ銀行普通預金	2,517,334	
	前払モンゴル植林事業費	1,569,576	
流動資産合計	・・・①		4,459,912
2 固定資産			
(1)有形固定資産			
	車両運搬具	0	
	什器備品	0	
(2)無形固定資産			
	ソフトウェア	0	
	借地権	0	
(3)投資その他の資産			
	敷金	0	
	長期貸付金	0	
固定資産合計	・・・②		0
【A】資 産 合 計 ①+②			4,459,912
【B-1】負 債 の 部			
1 流動負債			
	前受会費収入	53,000	
	前受モンゴル植林事業収入	3,883,000	
流動負債合計	・・・③		3,936,000
2 固定負債			
	長期借入金	0	
	退職給付引当金	0	
固定負債合計	・・・④		0
【B-1】負 債 合 計 ③+④			3,936,000
【B-2】正 味 財 産 の 部			
	前期繰越正味財産額	615,119	
	当期正味財産増減額	-91,207	
正 味 財 産 合 計			523,912
【B】負 債 及 び 正 味 財 産 合 計			4,459,912

書式第13号(法第28条関係)

議案第2号

2024年度 活動計算書(その他事業がない場合)

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

(単位:円)

科 目		金 額	小計・合計
【A】経 常 収 益			
1 受取会費			201,000
	正会員受取会費	94,000	
	賛助会員受取会費	107,000	
2 受取寄附金			41,000
	受取寄附金	41,000	
	施設等受入評価益	0	
3 受取助成金等			200,000
	受取補助金	200,000	
4 事業収益			2,528,988
	植林事業	2,470,678	
	モンゴル料理交流事業	58,310	
5 その他の収益			14,617
	受取利息	133	
	為替差益	14,484	
経 常 収 益 計			2,985,605
【B】経 常 費 用			
1 事業費			
(1)人件費			0
	給料手当	0	
	役員報酬	0	
	退職給付費用	0	
	福利厚生費	0	
(2)その他経費			2,896,100
	植林費	100,000	
	旅費交通費	2,637,418	
	食費	51,610	
	通信運搬費	34,812	
	通訳翻訳費	0	
	消耗品費	6,700	
	印刷製本費	63,250	
	手数料	2,310	
事業費計			2,896,100
2 管理費			
(1)人件費			0
	役員報酬	0	
	給料手当	0	
	退職給付費用	0	
	福利厚生費	0	
(2)その他経費			180,712
	通信運搬費	46,135	
	通訳翻訳費	0	
	消耗品費	3,336	
	印刷製本費	29,678	
	交際費	0	
	会議費	2,900	
	旅費交通費	0	
	手数料	98,663	
	為替差損	0	
管理費計			180,712
経 常 費 用 計			3,076,812
当 期 経 常 増 減 額 【A】-【B】	・・・①		-91,207
【C】経 常 外 収 益			
	固定資産売却益	0	
	過年度損益修正益	0	
経 常 外 収 益 計			0
【D】経 常 外 費 用			
	固定資産売却損	0	
	災害損失	0	
	過年度損益修正損	0	
経 常 外 費 用 計			0
当 期 経 常 外 増 減 額 【C】-【D】	・・・②		0
税 引 前 当 期 正 味 財 産 増 減 額 ①+②	・・・③		-91,207
	法人税、住民税及び事業税	・・・④	0
	前期繰越正味財産額	・・・⑤	615,119
当 期 経 緯 正 味 財 産 額 ③-④+⑤			523,912

2024年度監査 報告書

2024年度「特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会」

収入支出決算書および事務執行については、2025年5月11日に監査に付され、帳簿・領収書ならびに関係書類を照合した結果、決算の計数は正確なものであり、また、事務は適正に執行されていることを認めます。

2025年5月11日

監事 落 合 恒

議案第4号

2025年度役員・顧問の選任について（案）

特定非営利活動法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会役員として、定款第14条第1項にしたがって、以下のものを役員として選任します。
なお、各役員の任期は定款第16条第1項により2025年7月7日から2年とします。

変更年月日 変更事項	役名	(フリガナ) 氏名	住所又は居所	備考 (現職)
2025年 7月7日再任	理事	アンソウ エミ 安藤 幸美	東京都武蔵野市吉祥寺東町 1丁目15番25号	理事長
2025年 7月7日再任	理事	タダノ ケイコ 田崎 桂子	東京都小金井市東町 1丁目17番6号	副理事長
2025年 7月7日再任	理事	ヤマモト セイジロウ 山本 誠一郎	東京都西東京市新町5丁目 1番1号セピアコート107号	副理事長
2025年 7月7日再任	理事	ヨシダ ヨシキ 依田 和也	東京都府中市美好町 1丁目11番地の2	
2025年 7月7日再任	理事	タカハシ レンジ 武川 俊二	神奈川県座間市相模が丘 3丁目53番7号	
2025年 7月7日再任	理事	カンノ アサヒ 菅野 昭彦	東京都武蔵野市板場 3丁目36番地15	
2025年 7月7日再任	理事	ミヅノ カズナ 三浦 和真	東京都武蔵野市八幡町 2丁目2番1号	
2025年 7月7日再任	理事	ウチダ アキラ 内田 彰	東京都港区台場1丁目3番 2-707号	
2025年 7月7日再任	理事	サトウ タカシ 佐藤 巧	東京都西東京市富士町4丁目 15番1号403号	
2025年 7月7日新任	理事	ウチダ レン 松原 俊雄	東京都文京区本駒込1丁目 11番6-407号	
2025年 7月7日再任	監事	オグサキ フミ 落合 恒	東京都武蔵野市境5丁目2番 23号	

※理事長及び副理事長は、定款第14条第2項にしたがい、理事会で互選します。
※新任の松原俊雄氏からは、この総会において承認をいただければ、理事に就任する旨の承諾を得ています。

議案第5号

2025年度事業計画（案）

2025年4月1日から 2026年3月31日まで

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

- 1 事業実施の方針
2024年度に試験的に実施したモンゴル国・ウランバートルにおける植林事業を確立し、第2回目となる植林ボランティアツアーを武蔵野市の後援をうけ、公募にて実施する。
例年通り、広報紙ブリローダの発行は年に1～2回行い、新しい植林場所のレポートを行う。
世界情勢の回復は未だ見込みがないが、情勢が安定しだいハバロフスクに向かい、今後の相談をしたい。ロシア太平洋国立大学と調整がつけば、環境セミナーをオンライン会議等で実施する。
2026年は当協会30周年にあたるが、そのプレ事業として初代会長の秋山智英氏にゆかりのある上高地において追悼と周年記念の行事を上高地アルプス山荘と共催でおこなう。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【4885】千円)

事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者の 範囲及び人数	事業費の 予定額 (千円)
ブリローダ (広報紙) 発行事業	広報紙を発行して広く活動を紹介する。	年間1～2回		3	会員ほか広く500	60
植林ボランティアツアーinモンゴル	モンゴル国ウランバートルにおいて植樹作業をおこなう。	2025.5.2～5.6	ウランバートル	5	会員ほか広く15	4475
環境セミナー事業	ロシア太平洋国立大学と共催で講演会を行う。	2025.秋	オンライン等	5	日本とロシアの環境に関心のある方々	50
初代会長追悼・協会設立30周年プレ事業	初代会長のゆかりの地である上高地において式典を上高地アルプス山荘と共催で行う。	2025.10	上高地 アルプス山荘	15	当協会にゆかりのある方々	300

特定非営利活動法人
むさしの・多摩・ハバロフスク協会 顧問名簿

2025年度の「特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会」の顧問は、以下のとおりとします。

2025年5月25日現在

	氏名	就任日
顧問	土屋 正 忠	平成21年4月18日
顧問	稲 葉 孝 彦	平成21年4月18日
顧問	長 島 昭	平成23年6月26日



◆5月25日(日)に2025年度総会及び
植林ボランティアツアー報告会を開催いたしました

書式第9号(法第10条・第25条関係)

議案第6号

2025年度活動予算書(その他事業がない場合)案

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

科目		金額	(単位:円)
(A) 経常収益			小計:合計
1 受取会費	正会員受取会費 賛助会員受取会費	100,000 100,000	200,000
2 受取寄附金	受取寄附金 施設等受入評価益	10,000 0	10,000
3 受取助成金等	受取補助金	200,000	200,000
4 事業収益	林業事業に必要となる事業収益(モンゴル国ウランバートルにおいての植樹作業の収益) 森林の保全と自然環境に関する研究及び普及啓発事業収益(環境セミナー) その他この法人の目的達成に必要な事業収益(広報紙ブリローダ) その他この法人の目的達成に必要な事業収益(追悼・周年行事)	4,275,000 0 0 300,000	4,575,000
5 その他の収益	受取利息	0	0
経常収益計			4,885,000
(B) 経常費用			
1 事業費	(1) 人件費 給料手当 役員報酬 退職給付費用 福利厚生費 (2) その他経費 会議費 旅費交通費 雑費 雑林費用 宿泊費 印刷製本費 通信運搬費 通訳翻訳費 消耗品費 謝金 保険料	0 0 0 0 0 0 4,000,000 140,000 300,000 160,000 20,000 20,000 65,000 50,000 120,000	0 4,885,000
2 管理費	(1) 人件費 役員報酬 給料手当 退職給付費用 福利厚生費 (2) その他経費 消耗品費 印刷製本費 通信運搬費 会議費 文書印刷費 減価償却費	0 0 0 0 0 5,000 20,000 20,000 5,000 50,000 0	0 100,000
経常費用計			100,000
経常増減額 (A)-(B)・・・①			4,885,000
(C) 経常外収益			0
経常外収益計			0
(D) 経常外費用			0
経常外費用計			0
経常増減正増減額 (C)-(D)・・・②			0
前期繰越正増減額・・・③			0
法人税、住民税及び事業税・・・④			0
前期繰越正増減額・・・⑤			523,912
次期繰越正増減額 ①+②+③-④+⑤			523,912

<2024年度植樹の苗木調査報告>

場 所：モンゴル国立科学アカデミー自然植物研究園内 520.46㎡

日 時：2024年5月4日の実施場所で2025年5月4日に調査

本 数：6年生 モンゴルザクラ Armeniaca sibirica (L.) Lam 0.5 ～ 1.0m 100本

活着率調査参加者：日本人19名、オイスカモンゴル事務局長、オチヨ植物研究園所長 合計21名

活着率：91% (2025年5月4日調べ)

モンゴル国立科学アカデミー自然植物研究園のオチヨ所長のご指導のもと、2025年ツアーメンバーが調べた結果(生存:白リボン・枯渇:黒リボン)をその場でご確認いただいて、100本中91本は完全活着、3本は不明(様子を見る)、6本は枯渇(今後、補植を行う)となりました。



●ウランバートル市内
モンゴル国立科学アカデミー自然植物研究園



●活着率確認作業の様子



ダンバダルジャーに看板が立ちました！



●お世話になったオイスカモンゴルの皆さん

2025植林ボランティアツアー inモンゴルの2日目、5月3日に実施した日本人抑留者墓地跡周辺植樹地に看板が立ちました。慰霊碑前の記念堂を見上げる場所で「友好の森」と名付けました。クラウドファンディング等の寄付者・参加者・協力者一覧が明記されています。現地で作成していただき、6月10日に設置されました。

<編集後記>

プリローダ 第77号

発行日	令和7年7月1日	発行	NPO法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会
住所	東京都武蔵野市吉祥寺東町1-15-25	TEL/FAX	0422-23-5351
E-mail	mail@mtxa.org	URL	https://mtxa.org/
発行人	安藤 栄美	編集	田崎 桂子
広報委員	山本誠一郎、木崎 剛、落合 恒、内田 彰、内田 央、内田 周、佐藤 巧		
印刷	巧芸印刷株式会社		

本年4月に「森は海の恋人」活動で知られる畠山重篤さんがご逝去されました。ハバロフスクの植林ツアーにご参加頂いたこともあり、当協会は大変お世話になりました。これまでのご厚情に感謝申し上げますとともに、衷心よりご冥福をお祈りいたします。